

## 伊豆・小笠原諸島の海で獲れるお魚の経済波及効果

東京の海（伊豆・小笠原諸島海域）は広く、東京都以外からも漁船が来て操業しています。この海で獲れた魚は、鮮魚や加工品として全国に流通していますが、その経済的な波及効果は把握されていませんでした。そこで、今回は産業連関分析という手法により、東京都の海で獲れる魚の経済波及効果について試算しました。

実施機関	資源管理部	事業名	資源研究
------	-------	-----	------

### 背景・ねらい

伊豆・小笠原諸島など東京都の海は広大であり、その面積は日本の 200 海里経済水域の約 45% (171 万km<sup>2</sup>) に達します。同海域では東京だけではなく北海道から九州までの漁業者も操業し、平成 7 年の生産額は 160 億円。東京都が 59 億円、他県が 101 億円でした。また、魚の流通体系は複雑で私たちが食べるまでには多数の人が関わっています。東京で獲れた魚が果たしている役割は大きく、漁業以外の他の産業や他県の経済にも影響を与えているのではないかと考え、本研究をおこないました。

### 成果の内容・特徴

鮮魚の場合：漁業の直接生産額は 160 億円でしたが、第 1 次生産誘発は主に「商業」や「運輸」、「石油・石炭」産業に及び、その額は 369 億円（約 2.3 倍）でした。さらに第 2 次生産誘発は、「旅館・飲食店」、「商業」、「不動産」等に及び 147 億円でした。第 1 次・2 次生産誘発額を合わせ、直接生産額の 3.2 倍の 516 億円の経済波及効果がありました。地域別には都内の各産業に 159 億円、都外には 357 億円の効果を生みました。

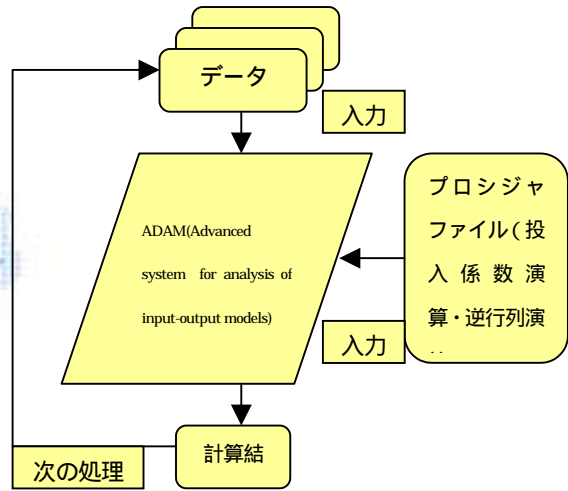
加工品の場合：魚が加工されることによる直接生産額は 546 億円でしたが、それに対し第 1 次生産誘発は、「商業」や「水産食料品」、「サービス」産業等に 2,039 億円の波及を及ぼし、更に第 2 次生産誘発は「旅館・飲食店」や「不動産」、「商業」産業に 948 億円の影響を及ぼしました。合わせて直接生産額の約 5.5 倍の 2,987 億円でした。地域別には都内の各産業に 1,193 億円、都外には 1,794 億円の効果を及ぼしました。

### 成果の活用と反映

平成 7 年に東京の海で獲れた魚が及ぼす経済波及効果は 3,503 億円でした。漁獲量ベースに換算すると 882 万円/トとなります。平成 2 年から平成 7 年までの 5 年間に漁獲量は底魚類、アジ類、マグロ類等 23,365 トンが減少しています。単純に計算し経済的損失は 1,844 億円に達することから、本海域の資源管理は関係県が連携し積極的に管理をおこなっていく必要があると思われます。

（山口 邦久）

複雑な水産物の流通体系



慶応義塾大学産業研究所開発のプログラム「ADAM」を利用  
最終需要項目別生産額の算出には次のモデルを使用した

$$Xa = [I - (I - \hat{M})A]^{-1} (I - \hat{M}) \times Fa$$

a は最終需要の項目。A は投入係数、M は輸入係数

東京都の海域は日本の 200 海里経済水域の約 45% を占めています。

・ 東京の海 (伊豆・小笠原諸島海域) で獲れた

魚の経済波及効果は

鮮魚として 516 億円  
+)加工品として 2,987 億円  
合計 3,503 億円

